

# JIFAS NEWS



Japan International Food and Aquaculture Society

〒302-0131

茨城県守谷市ひがし野 2-1-1001

TEL & FAX : 0297-44-4487

E-mail : jifas@sage.ocn.ne.jp

http://www.jifas.net

## 廃校に泳ぐ魚

(週刊新潮 3月26日花見月増大号)

四国にある二つのユニークな「廃校」をご存知ですか。一つは、プールにサバやアジ、さらにはシュモクザメが泳ぎ、もう一つは、体育館でチョウザメを育てている。俄かには理解しがたい二つの施設は、少子化で激増する廃校の活用に一石を投じた。

少子化の煽りを受け、増加する廃校の70%が再活用されている。その多くは公共施設に使われているのだが、中には一風変わった廃校利用法も存在する。青年時代の弘法大使・空海が修行し、悟りを開いたという伝説を残る御厨人窟（みくろと）。その近くで人気を呼んでいるのが「むろと廃校水族館(高知県室戸市)」だ。

2006年に廃校となった小学校を利用した水族館で、屋外プールや教室内にされた水槽に様々な魚が泳ぐ。面白いのは、これらの魚は室戸沖に仕掛けられた定置網や漁網で獲れたということだ。運営するのは室戸に調査拠点を置くNPO法人「日本ウミガメ協議会」。ところ変わって、香川県東かがわ市。中学校の廃校を利用して「瀬戸内キャビア」を生産する。株式会社CAVICも、同様に地元の熱い期待を背負っている。代表取締役の板坂直樹さん曰く「思い付き」で13年から始めたというチョウザメの養殖。本業は内装業だが、母校の中学校が解体されることを知り、1000万円で土地建物を購入し養殖業に参入した。体育館には13個の生け簀がおかれ、家庭科室はキャビアの加工場に、理科室は研究開発を行う場で、校長室は社長室として利用している。



体育館内では約3500尾のチョウザメを飼育する。奥に行くほど“高学年”になる。